

令和4年度

学校関係者評価報告書

穴吹デザイン専門学校

学校関係者評価報告書

穴吹デザイン専門学校 学校関係者評価委員会は、令和4年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施いたしましたので報告致します。

令和5年12月25日
穴吹デザイン専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため教育活動の観察や意見交換等を通じて、穴吹デザイン専門学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹デザイン専門学校が行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2. 委員・教職員

(委員)

岡野 康明 段原地区社会福祉協議会 会長・松川町町内会 会長
神田 浩二 広島県立広島工業高等学校 校長
川上 佳代 有限会社コンセプトワーク 代表取締役・日本グラフィックデザイン協会 運営委員
山岡 修 穴吹デザイン専門学校同窓会 創進会
上田 良名 穴吹学園保護者会 会長

(学校教職員)

林田 正彦 穴吹デザイン専門学校 校長
尾崎 隆一 穴吹デザイン専門学校 副校長
植村 祐介 穴吹デザイン専門学校 副校長代理・教務部部長・産学連携センター
種田 真幸 穴吹デザイン専門学校 事務局長・就職キャリアセンター部長・産学連携センター長
平田 卓也 穴吹デザイン専門学校 教務部課長

3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 : 令和5年12月6日(水)15:00~17:00

開催場所 : 穴吹デザイン専門学校 A702教室

4. 自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)と財務状況の報告

当校の「教育理念」「目的」及び「令和4年度の目標と計画」について説明。保護者アンケート結果を報告し、財務状況と自己評価項目について報告。「評価結果(総括)」と「取組状況とその分析」「今後の改善方策等」について報告を行った。書式は穴吹カレッジグループ所定の書式にて実施。

各評価項目について、「A」十分である「B」おおむね十分である「C」やや不十分である「D」不十分であるの4段階にて評価。財務状況については貸借対照表と資金収支計算書により説明。適切な経理処理が行われており、財務状況の改善が継続している。

5. 報告ならびに意見交換・質疑応答

●保護者アンケート結果報告について

- ・アンケート回答率が52.5%と低かった。回答率を上げるためにグーグルフォームを使用した結果に結び付いていないため、課題として次年度以降取り組みたい。
- ・学科単位など小規模な行事は実施したが、学校全体で行う大きなイベントは実施出来なかった。令和5年度は学校全体で行うイベントを開催した。
- ・優秀生の海外派遣もコロナウイルスの影響で実施出来なかったことが低評価の原因。令和5年度は穴吹学園全体で17名の学生を優秀生としてベトナム姉妹校に派遣した。
- ・就職に関しては30%の学生がやや低い評価。原因を探り改善に向けた取り組みを行う。
- ・情報の発信については、登録を頂いた保護者に対して毎週の出席状況をメール配信している。

《委員より学校への質問》

【神田委員】

『アンケートは卒業した学生に対して実施したものでしょうか？』

→ ご質問頂いた通り、令和4年度の卒業生です。

『回答を返信された方は学校に関心のある方の回答ということでしょうか？』

→ 調査は実施しておりませんが関心のある方からの回答が多いと考えます。

『パソコン・スマートフォン等を使用してメールを活用して回答頂く方法も取れますが。』

→ メール・グーグルフォームを使用してアンケートを実施致しました。

●事業報告・財務状況報告について

- ・195名が入学し在籍数は362名。退学率は6,3%で156名が卒業。うち143名が就職。
- ・卒業生数を分母とした内定率は91,7%。卒業後も就職支援を継続して職業に就くためのサポートを実施している。
- ・入学生の増加傾向が続いているため財務状況も安定した状態が継続出来ている。
- ・在校生では5つのコンペで受賞。2023日本パッケージデザイン学生賞の大賞・銀賞・審査員特別賞を受賞した。漫画に関するものでは4つのコンテストで受賞した。
- ・卒業生、講師の活躍状況では令和5年度の6つについて報告を行った。絵本の新刊が発売された卒業生など、各方面で活躍している。

《委員より学校への質問》

【川上委員】

『日本パッケージデザイン学生賞は芸大・海外からも参加があり、格式が高いコンテストです。』

そこでの実績ですから素晴らしいと思いますよ。』

→ ありがとうございます。今後も良い結果が得られるように教育活動に励みます。

●自己評価報告書について

自己評価報告書の理念・目的・目標・計画と総括した結果を報告したのちに、評価項目別評価結果について①～⑫までの全ての項目について取り組みと結果を報告した。

(総括した結果について)

- ・人的交流のある体制基盤の構築については、放課後に一般参加自由のトークイベントを実施することで学科の枠を超えた学びの場を内外に提供致しました。多彩なゲストをお招き出来たことで、デザインの関心を高めることが出来たと実感しております。
- ・Webコンテンツの充実については、学校Webサイトに「ANABUKI JOURNAL」の連載を開始し、在校生・卒業生・講師・教員の活躍や仕事の紹介を例に情報を発信致しました。

- ・デザイン業界の仕事内容の変化を把握については、企業訪問の実施と企業との交流行事に参加して求める人材や企業の要望や学校に期待する点の情報収集を行いました。その情報をもとに教務部と連携して就職支援を行った結果、専門職内定率65%の目標設定に対して69%の実績を残しました。
- ・ネット動画クリエイター学科の募集目標達成については、実務家講師を迎え専門性の高い授業運営に取り組みましたが目標は未達。学科内容の魅力や分野の将来性について共感を呼ぶ訴求が出来なかったと分析しています。

(総括した結果の課題と改善方策について)

- ・引き続き学科や学年を超えた人的交流を促して、デザインへの関心を高める取り組みを継続致します。また、Webサイトから在校生・卒業生の活躍を含め活動をビジョンやプロジェクトとして引き続き発信致します。
- ・デザイン系の求人内容や学生の仕事に対する価値観が変化しており、従来の考え方や方法を変えていく柔軟性が必要と感じています。企業・学生の対応を方法を探求して行きます。
- ・ネット動画クリエイター学科の募集目標達成のために、オープンキャンパスの体験授業やWebコンテンツ等の内容を見直し、訴求力を高める取り組みを実施致します。

(①教育理念・目的・陰性人材像について)

- ・デザインに関する業界は急速に変化を続けており、動画に関する技術習得が不可欠になっています。業務内容の変化に即した人材像を継続して探り、教育に反映して参ります。

(②学校運営について)

- ・コロナウイルス感染防止の取り組みからオンライン化が進みました。特に会議や勉強会などでオンライン対応を取り入れた結果、移動時間がなくなるなどの生産性向上に寄与しました。

(③教育活動について)

- ・学科特別授業として業界との勉強会を実施致しました。教員勉強会の機会を増やし、良好な教育活動内容になるために引き続き努力致します。

《委員より学校への質問》

【川上委員】

『学生の仕事に対する考え方に変化があることを知りました。企業において学生に求める考え方はよく起業家精神が必要と言われますが、別の表現で言えば問題や課題を見つけ出したり気付くことです。このような考え方が重要だと感じます。』

→ 何年前に「質問が出来ない若者が多い」というご意見を頂きました。頂いたご意見は進路関係の授業で学生に伝えました。伝えたから直ぐに出来た訳ではありませんが、企業様のご意見を伝えることで学生の行動に変化が現れることが重要です。今回のご意見も授業で伝えます。

(④学習成果について)

- ・検定試験の合格率アップのために特別講義を実施致しました。検定試験に合格した結果を学生は自信にしてもらいたいと考えています。合格率を上げるとともに学んだ知識や技術を使いこなせることが大事だと考えていますので、引き続き学生に指導して参ります。
- ・今後の改善方策については、授業では実技が多いため課題提出が多いのですが、返却して次の目標を立てるためのフィードバックが重要だと考えています。即時フィードバックが可能な仕組みを探求致します。

(⑤学生支援について)

- ・学生のニーズを踏まえて各種支援の充実に継続して取り組んでおりますが、カウンセラーの相談を週に一回と固定致しました。結果として利用者が増加しております。
- ・改善方策では保護者への情報提供について効果的なツールをどれにするかです。現状は保護者に対してメールへの登録を呼び掛けております。

《委員より学校への質問》

【山岡委員】

『専門職内定率の目標65%ですが、目標設定の根拠を教えてくださいませんか？』

- コロナ禍の前は専門職内定率は85%前後でしたが、影響がデザイン業界に出始めると50%前後に落ち込みました。令和3年度の専門職内定者数に上乗せした数字から目標を65%に設定致しました。目標をクリアしたことはデザイン業界もコロナ禍から脱つつあるのかも知れません。今後も専門職の内定を増やす取り組みを継続致します。

(⑥教育環境について)

- ・学科単位で日帰りの研修を実施することで見分を広める取り組みを行いました。コロナ禍から少しずつですがコロナ前の状況に戻っていると感じています。今後の改善方策についてはインターネットを利用した授業の増加に伴い、アクセスが集中した時にデータが開けられない等の事案が発生しています。より一層のネットワーク環境の整備が課題ですので改善を継続します。

- ・「6-4-b 施設・設備の耐震化を図っていますか」の項目が×となっています。建築物の法規は変更になっていきますので、建物を建てた時の法規では問題がないものの、現在の法規に照合すると不適格という「既存不適格」という状況です。建物が倒壊する恐れがあるというものではありません。

(⑦学生募集と受入れについて)

- ・イベント動員へのコロナの影響が少なくなり入学生数は昨年度を上回り、高等学校既卒者の入学も増加した。全教職員がオープンキャンパス等での入学検討者の悩みに向き合う気持ちで接することで、入学検討者が抱える問題の解決に尽力した結果が表れたと考えています。
- ・今後の改善方策としては、進路検討者に対して学校の理解だけでなくデザインの分野がより理解出来る発信を増やして行くことが重要と考えています。

(⑧財務について)

- ・入学生数の増加が続いていることから、昨年度に引き続いて財務状況は安定しています。

(⑨法令等の遵守について)

- ・個人情報の流出防止のため持ち出し用のノートPCを補充した結果、教職員の業務用PCの持ち出しを大幅に減少させリスクを軽減させました。
- ・今後の改善方策としては、急速に進むデジタル化に伴う教育支援アプリ等の活用における学生のプライバシー侵害により一層留意した運用が求められると考えています。

(⑩社会貢献・地域貢献について)

- ・地域や企業からの依頼については対応可能な範囲でお応え致しました。広島駅前通り勉強会ほかの地域イベントにも参加させて頂きました。
- ・「10-2-b 社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)」を実施し、評価・単位認定をしていますか」の項目が×の評価ですが、単位認定をしておらず取り組んでいないためです。

《委員より学校への質問》

【岡野委員】

『ご存知の通り広島電鉄の路線変更工事が進んでいます。町内会としてはこれを機に情報の発信を考えています。その際に必要になるのはデザインの力です。町内会の活動に是非とも協力をお願い致します。期待しております。』

→ 地域内の勉強会にも参加させて頂いていますので、引き続き情報交換をしながら本校が出来ることに取り組んで行きたいと考えています。

(⑪国際交流について)

- ・銘傳大学とのオンライン交流により、価値観や文化の違いの理解を深めることが出来ましたが対面による海外研修旅行・交流会は令和4年度も全て見送りとなりました。
- ・今後の改善方策については、留学生のアルバイト先の情報管理と生活指導を継続して行うことが重要だと考えています。

(⑫総括)

- ・各点検項目の取り組みは概ね達成されており、継続して適正な学校運営がなされています。ただし、部分的に担当責任者が不明瞭であった項目がありましたので、「12-1-c」の項目を×と致しました。令和5年度は改善致します。

《報告全体を通して》

【上田委員】

『子供の自宅学習の様子を見ると、私では作れない物を制作物として作っているので純粋にすごいと思って見えています。就職活動ではインターネットの情報が増えたので、沢山の情報を見て選んでいくのは大変だと思います。就職活動をする子供達は迷って大変だと思いました。』

→ 情報が多くて何をすれば良いのかわからないという学生は多いです。1年次に進路関係の授業を通じて個性を把握したり、求人情報のメール配信・学内での企業説明会・職場見学の引率などで仕事に出会う機会を増やす取り組みを継続しています。

【神田委員】

『評価項目を決めて取り組んでいच्छり、全体としての評価も高い点は素晴らしいと感じます。今回は12月の委員会開催でしたが、6～7月に実施出来るのであれば良いと思います。行事の予定もあると思いますが早い方が良いと感じました。』

『自己評価のフォーマットは文部科学省が示したものをベースとして各質問事項を設定したのでしょうか？高等学校では文部科学省の書式を基本として少しずつ変更を加えています。』

→ 文部科学省が示した書式を元に穴吹学園共通フォーマットを作成しています。

『高等学校でも自己評価を実施していますがプロセス評価が多いです。職業教育を中心に考える場合であれば、教育を通じて学生をこんな姿にしたい、と言う点を更に明確にする項目や指標があればもっと良いと思います。』

『広島県地方産業教育審議会のホームページに育成の指標が公開されていますので、ご覧になられると良いと思います。工業分野においては広い視野を持つ思考、課題発見力などのデザイン思考が必要になって来ています。提案力なども要求されますので必要とされる力を若者につけるための取り組みを進めて育成しています。』

→ 情報提供をありがとうございます。教育に反映して参ります。

本日は貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待にそえますよう、頂きましたご意見を日々の教育に活かして参ります。今後も宜しくお願い申し上げます。

以上